

5-3 都市農業

1 安定した農業基盤の確保

基本方針

農産物の供給という生産機能だけでなく、自然環境の維持や防災・治水機能などの多面的な機能を持つものとして優良農地や農業用水路などの生産基盤を確保するとともに、営農意欲のある農家を積極的に支援するなど、安定して都市農業を営むことができるような基盤の確保をはかります。

現状と課題

農地の減少、農家の減少が進行する中、若い世代の農業従事者も次第に減少していることから、農業用水などの生産基盤の確保とともに、次世代に受け継ぐ農業の担い手の確保が課題となっています。また、将来の地域農業・水田利用を明確にするための「地域水田農業ビジョン」の策定をはじめとして、大消費地に立地するという都市内農業の優位性を生かした新たな事業展開が必要となっています。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
市内産園芸作物の販売数量	7,210トン (14年度末)	7,300トン	7,400トン	緑政土木局
数値目標設定の考え方：農地農家の減少が進行する中、地産地消の推進により市内産園芸作物の販売数量の増加をめざす。				
農業用水路の改良・整備延長	60.3km (14年度末)	67.5km	71.5km	緑政土木局
数値目標設定の考え方：農業用水路(全体延長380km)の改良・整備を着実に実施し、農業用水の安定供給をはかる。				

事業計画

事業名	事業内容	現況(未見込み)	計画目標 [~ の事業量等]	所管局
優良農地保全利用対策事業	共同利用施設整備や高性能農業機械の導入にかかる費用などを助成	助成14団体 (14年度)	助成年13団体	緑政土木局
農業用水の安定供給	農業用水の安定供給をはかるため、農業用水路の改良・整備を実施	累計60.3km (14年度末)	累計67.5km [完了4.9km]	緑政土木局
	農業用ため池の改修を実施	累計8池 (14年度末)	累計9池 [完了1池]	

農業の多様な担い手の育成・確保	認定農業者 ¹ の拡大および農業経営士 ² 、青年農業士 ³ など各種認定制度に基づく認定者の確保につとめるとともに、担い手を育成する研修会を開催	認定農業者数 21人 農業経営士その他の認定者数 39人 (14年度末) 研修会の開催 年1回	認定農業者数 30人 農業経営士その他の認定者数 50人 研修会の開催 年1回	緑政土木局
地域水田農業ビジョン ⁴ の策定(新規)	米づくりの本来あるべき姿を実現すべく、地域水田農業推進協議会においてビジョンを策定		農家との座談会の実施 各地区2回	緑政土木局

1 認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が策定した基本構想の農業経営目標に向けて農業経営改善計画を作成し、市町村から認定を受けた農家。農業金融の低利融資などのメリットがある。

2 農業経営士

すぐれた近代的農業を自ら営み、地域の新しい農業の推進役として指導的役割を果たしているとして、都道府県が認定した農業者。

3 青年農業士

地域農業の担い手として都道府県が認定した農業青年。一定の営農経験を有すること、将来も農業経営を實踐して地域農業の推進者になると見込まれること、農村青少年の集団活動に積極的に参画することなど、一定の要件を満たす者が認定を受ける。

4 地域水田農業ビジョン

農業者、農業者団体が主体となる米の生産調整システムを構築し、水田農家の経営の安定化をはかるため、地域水田農業推進協議会(農協、農業者団体と市で設立)において策定する新たな計画。これに基づき、平成22年度までに米づくりの本来あるべき姿の実現をめざす。

2 ふれあい農業の推進

基本方針

農業体験などを通じて市民と農業生産者との交流を促進するとともに、農業公園の整備などをすすめ、市民が農業にふれあい、農業に対する理解を深めることにより、都市と調和した農業を振興します。

現状と課題

愛知県下第2位の生産量を誇るミツバをはじめとして、市内産農畜産物の生産量の多さは意外と知られていません。都市農業を推進するにあたり、農業体験や地産地消⁵の推進、食農教育などにより、名古屋の農業をより多くの市民に理解してもらうことが必要です。

また、市内にある農業センター、東谷山フルーツパーク、農業文化園は、農業を通じたふれあいや憩いの場として重要な機能を果たしています。農業センターのある荒池緑地では、市民の積極的な参画を得ながら「荒池なごやかファーム基本構想」を策定しました。都市農業の振興のため、今後も農業とのふれあいや理解を通じ、市民と協働で事業に取り組んでいく必要があります。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
都市農業のサポーターとなる農業ボランティアの数	80人 (14年度)	150人	200人	緑政土木局
数値目標設定の考え方：農業ボランティア活動の継続と拡充のため、農業ボランティアの年20人程度の追加登録をめざす。				

事業計画

事業名	事業内容	現況(未見込み)	計画目標 [~ の事業量等]	所管局
地産地消の推進(新規)	農家が農産物を直接販売する朝市・青空市の充実、直売施設の整備をはじめ、なごや農業フェスティバルの開催、ブランド農産物の育成を推進	朝市・青空市の開催 年545回 農業まつりの開催	朝市・青空市の開催 年650回 PRパンフレットの作成 地産地消推進協議会の設置・運営 地元産農産物の利用・活用の検討 なごや農業フェスティバルの開催 直売施設の整備	緑政土木局

⁵ 地産地消

地域で生産されたものを、その地域で消費すること。消費者の食に対する安全・安心志向の高まりを背景に、消費者と生産者の相互理解を深める取り組みとして期待されている。

<p>農業を通じた交流の促進</p>	<p>市内農家の農地を利用し、子どもに農業体験をしてみせ、生命を慈しむ心を育てる食農教育を推進</p> <p>農家の担い手不足に対応するため、農業を支援するボランティアを養成し、農家へ派遣する営農バックアップを実施</p>	<p>市民農業講座、交流会の開催</p>	<p>事業計画の策定 食農教育推進協議会の設置</p> <p>市民農業講座、交流会の開催</p>	<p>緑政土木局</p>
<p>農園のあるまちづくり</p>	<p>農地がまとまって残っている天白区菅田地区において、多種多様な市民農園を配置するとともに、収穫祭などを通じて市民と農業生産者の交流を促進</p>	<p>農園整備・設置 累計 11 か所 (14 年度末)</p> <p>収穫祭の開催</p>	<p>農園整備・設置 累計 15 か所 [完了 3 か所]</p> <p>収穫祭の開催</p>	<p>緑政土木局</p>
<p>荒池なごやかファームの整備</p>	<p>荒池緑地において、ふるさとをテーマに、市民の主体的な協力を得て良好な樹林地の保全・育成をすすめるとともに、散策路などを整備</p>	<p>供用面積 8.4ha (14 年度末)</p> <p>基本構想の策定</p>	<p>供用面積 18.2ha</p> <p>サポートクラブの設立</p>	<p>緑政土木局</p>